

事業評価シート

番号 1740090 _ 1

【1.基本情報】

事業名	岐阜公園再整備事業				
担当部名	都市建設部	担当課名	歴史まちづくり課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成25年度～令和10年度	根拠法令 関連計画※	都市公園法、岐阜市都市公園条例、 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜公園が持つ信長公居館跡などの歴史的価値と、金華山・長良川などの豊かな自然環境を活かした本格的な歴史公園として再整備を推進する。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・信長公が活躍した戦国時代の歴史的価値の顕在化 ・歴史的価値を学習するための施設整備 ・近代の歴史的資産や自然と調和した都市公園としての整備 	
事業の対象	何を	岐阜公園
	誰に (対象者・対象者数)	市民及び観光客
	どのくらい (具体的な数値で)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドンス機能や庭園の整備 ・伝統的活動を支援する広場機能の確保、緑陰やせせらぎを楽しめる散策路の整備 ・近代に建設された建造物を活かす修景整備など
令和2年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の受け入れ環境整備として花木広場の老朽化したトイレ改修を実施 ・忠節用水路の文化的な景観や周辺の自然景観などを活かしたせせらぎ緑道整備を推進 ・国史跡岐阜城跡と連携した施設整備や民間活力を活かした施設整備などの検討を実施 ・公園拡張区域の建物補償と用地取得を実施 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	12,363	390	13,260	390	12,675	390
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	12,363	390	13,260	390	12,675	390

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		350,751	420,060	458,271
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託費	32,561	21,843	15,095
	用地・補償費	183,901	324,008	377,496
	工事費	120,110	60,181	53,918
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		350,751	420,060	458,271

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	363,114	433,320	470,946

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	122,790	121,290	338,400
県支出金			
市債	161,600	205,600	91,100
使用料・手数料			
その他			
計(F)	284,390	326,890	429,500

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	78,724	106,430	41,446

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民及び観光客	市民及び観光客	市民及び観光客
受益者数	約110万人	約110万人	約66万人
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	公園施設の新設・改修		箇所
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	3	4	1
実績値	3	4	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	来園者数の増加		人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	-	-	1,120,000(R3年度)
実績値	-	-	659,261
達成状況	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	シビックプライドの醸成と観光振興による産業活性化を図るため必要である。 管理者である本市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	花木広場の改修したトイレ利用者からの評価も高く、民間団体によるイベントが開催されるなど、新たな賑わいが創出されている。 来園者へのサービスの充実を図るため、民間活力を活かした公園施設の整備、管理運営手法を今後も継続して検討する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により来園者が減少したものの、段階的な再整備により魅力的な施設整備が着実に進んでおり、市民意識調査による「観光資源が豊かなまち」だと思う人の割合が51.4%から59.7%に増加するなど、整備効果が得られている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	来園される皆さまが利用することができ、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	岐阜公園が持つ歴史的価値と金華山・長良川の自然環境を活かした本格的な「歴史公園」へと再整備を推進するとともに、「国史跡岐阜城跡」との連携や民間活力を活かした施設整備の検討など、全国に誇る歴史資産、観光資源としての魅力を高められるよう、今後も継続して実施する。

事業評価シート

番号 1740090 _ 2

【1.基本情報】

事業名	「ぎふ・いざナビ」を活用したまちなか歩き支援事業				
担当部名	都市建設部	担当課名	歴史まちづくり課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成18年度～	年度	根拠法令 関連計画※	まちなか歩き構想	

【2.事業概要】

事業の目的	携帯電話とQRコードを活用した「ぎふ・いざナビ」や案内マップ「まちなか歩きガイド」により、まちなかを歩きを支援するための情報(観光・歴史・散策コースなど)を提供する。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜市ケータイサイト「ぎふ・いざナビ」で、歴史文化・観光情報を発信 QRコードを、歩行者系サイン(案内板)やバス停時刻表、観光施設などに設置 折たたみ式のマップを印刷・配布(1万部) 	
事業の対象	何を	歴史文化、観光、散策コースの情報
	誰に (対象者・対象者数)	市民及び観光客
	どのくらい (具体的な数値で)	<ul style="list-style-type: none"> 「ぎふ・いざナビ」はコンテンツ数215 「まちなか歩きガイド」は1万部(A2版カラー両面刷り、ミウラ折り)作成、長良川右岸(長良地区)・岐阜公園周辺から加納地域までの中心市街地の情報を掲載
令和2年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> 「ぎふ・いざナビ」で、市の歴史や観光などの情報を発信した。 「まちなか歩きガイド」を1万部作成し、公共施設などで配布した。 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,585	50	2,720	80	1,625	50
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,585	50	2,720	80	1,625	50

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	マップ印刷代	918	3,800	1,018
	いざナビ保守管理	243	196	198
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		1,161	3,996	1,216

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	2,746	6,716	2,841

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金		1,226	
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	110	130	90
計(F)	110	1,356	90

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	2,636	5,360	2,751

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民及び観光客	市民及び観光客	市民及び観光客
受益者数	34,409	38,922	11,396
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	77	138	241

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	マップの印刷		部
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	10,000	15,000	10,000
実績値	10,000	15,000	10,000

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	本市の歴史や文化に触れる人数		人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	21,000	26,000	21,000
実績値	23,192	37,421	23,879
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	まちなかを歩いて巡る「まちなか歩き構想」を実現するために必要である。 市民及び観光客がまちなか散策をするため、市が歴史文化、観光などの情報を提供することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	QRコードなどにより、まちなか歩きに必要情報を提供することで得られる効果とコストを比較すると妥当である。 情報の多言語化など、市民や観光客がより「歩き」を楽しむことができる仕組みに発展させる必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大による不要不急の外出抑制の影響で、アクセス数が低調であったが、基本的に毎月QRコードからのアクセスが数百件あり、効果をあげている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	平等に利用することができ、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市民や観光客に必要な観光名所の解説などの情報提供ツールとして効果があるため、今後も継続して実施する。

事業評価シート

番号 1740090 _ 3

【1.基本情報】

事業名	まちなか歩き回廊推進事業				
担当部名	都市建設部	担当課名	歴史まちづくり課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	委託(出資団体)	補助の種類※	実施主体	(一財)岐阜市にぎわいまち公社 (公社)岐阜市シルバー人材センター	
実施期間	平成19年度～	年度	根拠法令 関連計画※	まちなか歩き構想	

【2.事業概要】

事業の目的	まちなかを歩いて巡り、ゆったりとした時間を過ごし楽しむことのできる「まちなか歩き」を推進する。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングイベントを実施 (金華地区における歴史をテーマとしたウォーキング) ・まちなか歩きの実態および促進状況を把握評価するための歩行者交通量調査を実施 (長良川右岸地区・金華地区・加納地区の平日及び休日) 	
事業の対象	何を	まちなか歩きのイベント
	誰に (対象者・対象者数)	市民及び観光客
	どのくらい (具体的 数値で)	春と秋に実施(春は半日、秋は2日程度)
令和2年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・春の「まちなか歴史ウォーク」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止 ・秋に「まちなか歴史クイズウォーク」を開催(11/14,15 岐阜公園及び金華地区) ・歩行者交通量調査を実施(平日3/9、休日3/14) 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,268	40	1,360	40	1,300	40
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,268	40	1,360	40	1,300	40

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		2,636	2,478	2,490
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	イベント開催	2,144	1,878	1,878
	交通量調査	492	600	612
減価償却費【施設管理】※(C)				
計(D)=B+C		2,636	2,478	2,490

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	3,904	3,838	3,790

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	3,904	3,838	3,790

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	イベント参加者	イベント参加者	イベント参加者
受益者数	3,192	2,421	3,879
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	1,223	1,585	977

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	イベントの開催		回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	1	1
実績値	2	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	本市の歴史や文化に触れる人数		人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	21,000	26,000	21,000
実績値	23,192	37,421	23,879
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	まちなかを歩いて巡る「まちなか歩き構想」を推進するために必要である。 市民及び観光客にまちなか散策を楽しんでいただくため、市が歴史文化、観光などのイベントを定期的開催することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか(広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	ウォーキングイベントは千人規模の参加があり、コストと比較すると効果を上げている。 委託先のにぎわいまち公社が持つ、地域住民やまちづくり団体とのネットワークを活用し、地域に根差した内容のイベントになっている。
有効性 (期待した効果が得られたか又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	新型コロナウイルス感染拡大の影響もある中でも、概ね目標に近い歩行者交通量があり、有効な事業であったと考えられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	平等に利用することができ、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	まちなかの回遊性向上を図り、にぎわいを創出するため、今後も継続して実施する。実施に際しては、「まちなか歩き構想」に基づき、趣向を凝らしたイベントとする。

事業評価シート

番号 1740090 _ 4

【1.基本情報】

事業名	三輪の歴史文化散策構想実施事業				
担当部名	都市建設部	担当課名	歴史まちづくり課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成21年度～	年度	根拠法令 関連計画※	三輪の歴史文化散策構想	

【2.事業概要】

事業の目的	三輪地区の文化財及び歴史文化資産の価値を地域住民、市民及び来訪者に知っていただくため、それらを巡るための散策コースを設定し周知する。	
事業の内容	折たたみ式のマップを印刷・配布(1万部)	
事業の対象	何を	三輪地区の歴史文化の情報
	誰に (対象者・対象者数)	市民及び観光客
	どのくらい (具体的 数値で)	マップは1万部(A2版カラー両面刷り、ミウラ折り)作成
令和2年度 (実施内容)	「三輪の歴史文化散策マップ」を印刷し配布した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	951	30	1,020	30	975	30
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	951	30	1,020	30	975	30

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		918	1,017	1,017
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	印刷製本費	918	1,017	1,017
減価償却費【施設管理】※(C)				
計(D)=B+C		918	1,017	1,017

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,869	2,037	1,992

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,869	2,037	1,992

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民及び観光客	市民及び観光客	市民及び観光客
受益者数	10,000	10,000	10,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	187	204	199

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	マップの印刷		部
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	10,000	10,000	10,000
実績値	10,000	10,000	10,000

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	本市の歴史や文化に触れる人数		人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	21,000	26,000	21,000
実績値	23,192	37,421	23,879
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	「三輪の歴史文化散策構想」にある散策コースの情報を市民及び観光客に周知し、活用してもらうために必要である。 市民及び観光客が地域を散策するため、市が地域の歴史文化の情報を提供することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	持ち運びに適した(ミウラ折)散策マップの配布により得られる歴史文化資産の周知効果とコストを比較すると妥当である。 マップは、地元の自治会連合会との協働で作成している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	毎年、公民館等で配布したマップ(1万部)は、すべて利用されており、三輪の歴史文化を広く発信できている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	平等に利用することができ、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	恒常的な需要があり、開発が進む三輪地区の歴史文化及び散策コースの情報発信に効果があるため、今後も継続して実施する。

事業評価シート

番号 1740090 _ 5

【1.基本情報】

事業名	ウォーキングコース整備				
担当部名	都市建設部	担当課名	歴史まちづくり課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成24 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	社会資本総合整備計画	

【2.事業概要】

事業の目的	目的地まで歩行者が歩きを楽しみながら移動する快適な歩行環境づくりを行う。	
事業の内容	主要導線及びウォーキングコースに路面標示及び案内板を設置する。	
事業の対象	何を	路面標示及び案内板
	誰に (対象者・対象者数)	市民及び観光客
	どのくらい (具体的 数値で)	・路面標示:長良橋通り57枚、金華橋通り43枚、御鯨街道48枚 ・案内板:長良川ウォーキングコース2基
令和2年度 (実施内容)	・路面標示の点検清掃及び修繕(修繕に合わせて多言語化)	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	2,219	70	170	5	163	5
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	2,219	70	170	5	163	5

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		2,246	567	767
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	設置	1,440	—	—
	点検清掃・修繕・多言語化	806	567	767
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		2,246	567	767

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,465	737	930

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	720		
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	720	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	3,745	737	930

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民及び観光客	市民及び観光客	市民及び観光客
受益者数			
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	路面標示の貼付		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	148	148	148
実績値	148	148	148

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	本市の歴史や文化に触れる人数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	21,000	26,000	21,000
実績値	23,192	37,421	23,879
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	歩行者が歩きを楽しみながら移動できる環境は必要性が高い。 歩行環境の整備は自治体が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	まちなかを安心して、また健康を意識して歩いてもらえる効果とコストを比較すると妥当である。 市政モニターへのアンケートにより、ニーズがある路線に施工している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	新型コロナウイルス感染拡大の影響もある中でも、概ね目標に近い歩行者交通量があり、有効な事業であったと考えられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	平等に利用することができ、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	安心して街中を歩いてもらいかつ、健康を意識してもらうために、引き続き路面標示などにより、トイレや施設までの距離、歩数、消費カロリーなどの情報を提供していく。また、近年増加している外国人観光客に対応するため、多言語化を順次進めていく。